

FRB、22年ぶりの0.5%利上げを決定

ポイント① FRB、0.5%の利上げを決定

FRB（米連邦準備制度理事会）は、5月3日-4日に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）にて、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を、0.25～0.50%から0.75～1.00%に引き上げることを決定しました。0.5%の利上げは2000年5月以来、22年ぶりです。また、6月からはFRBバランスシートの規模を縮小するQT（量的引き締め）を開始することも決定し、金融引き締めを急ぐ姿勢を示しています。

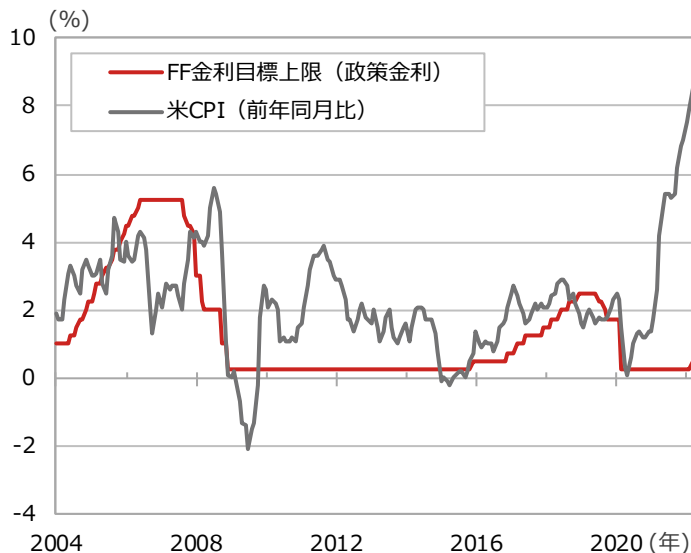
ポイント② 0.75%の利上げには消極姿勢

今回の0.5%の利上げの背景は、労働市場がほぼ完全雇用に到達する中で、あまりにも高くなりすぎたインフレを抑え込むことであると考えられます。但し、パウエルFRB議長は会見で、今後2回程度の会合でも0.5%の利上げを検討すると述べましたが、0.75%の利上げについては「活発な議論をしていない」と、否定的な姿勢を見せました。世界経済の不透明感が強い状況下での急速な利上げが、景気後退を招く可能性を市場は警戒していたことから、こうした発言にやや安堵感が広がったようです。

ポイント③ FOMC後の市場は不安定な動き

上述した通り、パウエルFRB議長の会見で利上げペース加速の懸念が和らいだことから、米10年債利回りは一時低下、米国株は上昇しました。しかし、足元にかけては不安定な動きが続いています。インフレは依然として高水準であり、今後の経済指標や世界情勢の状況次第ではFRBが更に引き締めを強化する可能性は十分にある為、金融政策の動向には引き続き注意が必要です。

米国の政策金利とCPI（消費者物価指数）の推移



期間：2004年1月末～2022年5月5日、月次
(CPIは2004年1月～2022年3月、月次)
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米10年債利回りとS&P500種株価指数の推移



期間：2021年1月1日～2022年5月5日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	5月11日	米消費者物価指数（4月）
	5月27日	米個人所得、個人消費支出、 個人消費支出デフレーター（4月）